



第131号

平成25年10月1日発行  
発行所  
長崎大学玉園同窓会  
〒850-0029  
長崎市八百屋町36番地  
☎095-824-5494  
発行人  
小川大天  
(株)昭和堂

# 愛してやまない子どもたちのために



長崎市PTA連合会

会長 松本律也

「学び合い、高めよう、子どもと向き合う親力」

これは、長崎市PTA連合会の平成二十五年度の年間スローガンです。

今年度は、市P連改革二年目にあたります。市内各小中学校PTAのための連合会として、専門委員会での再編等を行い、さらなる改革改善に取り組み、スタートしました。

近年は、PTA活動においても少子化に伴う会員数の減少、また

個々人の価値観の多様化や共働き世帯の増加に伴い、PTA活動への負担を感じる保護者が増え、役員のなり手が少なく、PTA活動そのものが機能を発揮できない状態になりつつあります。

しかしながら、このような時代だからこそ私たち親が積極的にPTA活動や学校・地域行事に参加し、親としての見識や資質を高め、家庭教育力の向上に向け、互いに連携していかねばなりません。未来を担う、愛してやまない子どもたちを心豊かでたくましく育てる責務があります。

そのため、家庭教育力の核となる親力の育成に視点を置き、積極

的に家庭環境作りを推進していくことが必要だと考えています。

今年度も重点活動の一つであるファミリープログラム(参加型学習プログラム)を市教委生涯学習課と連携し、家庭と学校の相互の連携・融和に努め、学校と保護者ががっちりとしたスクラムを組み、子ども一人ひとりが笑顔で生き生きと心豊かな生活を送られるようPTA活動を展開していきたいと思っています。

ところで、「PTA」はP(親)とT(先生)の会であることは、承知のとおりです。

最近では、PTAにC(地域社会・住民)が加わり、PTCAという言葉がよく使われるようになってきました。C(地域)との連携・協力によって子どもたちがより多くの方々に見守られ、育てていただいていることは大変ありがたいと思っています。

T(先生)については、先生方もPTA会員なのですが、その意識が十分でない先生方もおられるようです。

長崎大学教育学部からも多くの方が学校の先生として活躍されています。先生方には、より一層P

TA活動にご理解いただき、行事等にも積極的にご参加いただきませうように願っています。

話は変わりますが、来年の八月に長崎で初めて日本PTA全国研究大会長崎大会が開催されます。全国から約八千人のPTA会員が長崎県を訪れ、二日間にわたり長崎市を中心に十の分科会と全体会において、子育てや教育環境等、各テーマにそって発表や基調講演が行われます。

長崎市では四つの分科会と全体会が開催され、現在長崎市においても話し合いを重ね、大会成功へ向け鋭意努力しているところです。多くの方にご参加いただき、子育てについての学びを深めて欲しいと思いますし、長崎の良さをアピールしていきたいと思っています。

皆様方にもご参加いただければ幸いです。

最後になりますが、玉園同窓会の皆様には、今後もTとしての立場から子どもたちの健全育成のために共に協力いただきませうようお願いする次第です。貴会の更なるご発展・ご活躍を祈念してまいります。

**主題**  
**「人間関係を大切にしたい教育」**

昭和六十年代、臨時教育審議会は「学校教育の荒廃」という問題について答申しました。

陰湿ないじめ、子どもの自殺、登校拒否、そして体罰等の諸病状は、子どもたちが家庭・学校・社会の中で人間としての尊厳・価値・個性・自主性を尊重されていないことにあると指摘しました。

その答申をうけ、一五期中央教育審議会は「ゆとりの中で生きる力を育てる」教育を提言しました。

各学校は、人間関係の育成に全力をあげて取り組み、問題を克服し、鎮静化に向けて落ち着きを取り戻すことができました。

にもかかわらず、また、いじめ・子どもの自殺・体罰等の問題が、大きな教育問題として、社会の注目を集め、学校にとって、いじめ・自殺・体罰など、人間関係に関することが深刻な問題となっています。

各学校では、改訂教育基本法の精神や、それをふまえた新学習指導要領の理念である「生きる力」の育成にむけ、特に、総則にうたわれている「教師と児童生徒、および児童生徒相互の人間関係を深める」教育に取り組んでいるところです。

そこで本会報でも、標記主題を掲げ、各学校の取り組みの現状を紹介し合い、研修の場にしたいと考えました。

自校の取り組みと重ねて、参考にさせていただければと思います。

やさしい心 夢輝く  
**歌小の子どもの育成**

佐世保市立歌浦小学校長 金子圭一



平成二十二年に佐世保市と合併するまでの鹿町町の観光案内に「うつくしかまち、鹿町」とありました。春の歓迎遠足は長串山に登り、山一面を埋め尽くすつつじの花と西海国立公園北九十九島の景観を楽しむことができました。

本校の特色を考える時必ず大きな分岐点になっているのが平成十四年、十六年に県教委の指定を受けて取り組んだ「タフな子どもを育むための実践モデル事業」です。

研究指定が終了するとその取り組みも一段落するケースが多くありますが、九年経過した現在でもその研究を支えた学校支援会議（スクールエリア推進委員会）の

推進力は衰えず、合併や児童数の減少などの変化に対応しながら現在に至っています。

一 児童の実態について  
 児童数の減少に伴い、一クラス

二十人前後の単学級です。明るく活発で男女の仲がいい実態は全学年に共通しています。落ち着いた環境によって、穏やかで問題行動が殆どありませんが、競い合うストレスやプレッシャーを感じる機会が少ないのが現状です。

二 目指す児童像「思いやりのある子」を育てるために

具体方策の大きな柱は「ふれあい交流活動」と「体験活動」の二つです。交流活動の対象は異学年・保育所・近隣の小学校・中学校・県立高校・県立大学・地域の方などです。クラスの友だちをはじめ長年同じメンバーと生活している子どもたちにとって、本校以外の人々との交流は緊張感や戸惑いを生じさせ、相手意識を覚醒させる絶好の機会となります。三年生は近隣校に赴き体育の授業を、五年生は宿泊体験学習を合同で実施しています。

夏季休業期間中は「サマースクール」と称して県立大学生の協力を得た学習会を開催しています。国語・算数を中心とした自主学習の習熟がねらいですが、子どもたちにとって若くてエネルギーが

な大学生と交流することで刺激を受けることがもう一つのねらいです。昨年は学習の合間に、大学での勉強や生活、サークル活動などを話題にしてみました。

広大な敷地を活用し栽培活動にも力を入れています。今年度は学校田を設営し稲作の体験学習を田植えと稲刈りだけでなく年間を通して取り組めるようにしました。五年生が毎日学校田に足を運んで世話をしたり見守ったりしていますが、台風や猛暑など天候の変化を心配する声がかられるようになりました。これからも稲の病気や害虫などに悩まされることが予想されますが、稲作に携わる方々の苦労や工夫を本物に近い形で体験させることができます。

### 三 地域との連携をとおして

前にも紹介していますが学校支援会議の協力で様々な支援をいただいています。学校支援ボランティア(①登下校見守り ②図書 ③花作り・栽培活動 ④学習)と放課後子ども教室の二つの柱があります。地域の方々に見守られ、認められることで子どもたちは自己有用感や自尊心を高めています。

思いやりや認め合う心を育てるためにはその対象が必要であり、上記のような取り組みを行っています。活動や行事そのものが目的化しないよう漫然と取り組むので

はなく、時代の変化に対応しながら相手意識や目的意識を明確にすることを全職員と共通理解しています。小規模校のよさは一人一人の子どもたちのよさを職員をはじめ学校にかかわる多くの方々が理解していることにあります。将来

## いじめ防止の取り組み

諫早市立高来中学校長 安 浪 勝 之



な高台にあります。

高来町は、名水の里と呼ばれており、町内には湧水で有名な轟水源があり、夏は涼を求める人で賑わっています。本校のプールも地下水を利用しています。

本校の校訓は「共生・探究・鍛錬」、教育目標を「高め合い(徳)」「学び合い(知)」「磨き合い(体)」と定めています。また、本校のめざす生徒像である「思いやり深い生徒」「自ら学び考える生徒」「健康でたくましい生徒」を目標に日々の教育活動を行っています。

最近、科学の進歩で携帯電話やスマートフォンが普及し、便利な世の中になった反面、SNS(ソーシャルネットワークサービス)に関わる問題や今までになかった新しい問題も発生しています。また、全国的にもいじめ・体罰さらには

的には鹿町を離れる子どもたちの割合は多く、新しい土地で新たに人間関係を築いていかなければなりません。この鹿町で培った体験や情緒はこれからの成長や良好な人間関係を構築していく基盤になると信じています。

若者の自殺等人間関係に関することが社会問題となっており憂慮すべき事態になっています。このような時に学校としてやるべきこと、学校ができることを粛々と行っていくことが大切であると考えます。

ここでは、「いじめ防止」について絞り取り組みを紹介させていただきます。

まず、「いじめは、いつでもどこでも起こりうる」という危機感を持って日々臨んでいます。アテナをはり、兆候をキャッチすることが重要です。生徒の変容を職員室内の話題にしたり、学年会で話題に上げたりなど全職員で共有する場面をできるだけ多くとるようにしています。週一回の生徒指導部会では、各学年の生徒指導についての確認や対策について協議し、未然防止・早期発見・早期解決に向け取り組んでいるところです。また、教育相談や生活アンケートを計画的に実施し、気になる事象がある場合には早期対応・早期解決を目指し組織的に取り組んでいます。

更に、昼休みには教室で生徒とふれあう時間をつくったり、補充指導を行ったりなど、生徒が気軽に相談できるような雰囲気作りも行っています。いじめ加害に向かう生徒は、学校生活や家庭生活でなにがしかの

不満を抱えています。つまらないことで他人を傷つけてそんな不満を一時的にでも解消しようという行為が、多くのいじめです。全員が安心して学校生活を送ることができ、認めてもらっているという実感が持てればいじめに向かわないものと考えます。

学校生活において、所属感・責任感を持たせ認めてやるのが大切で、さらには、「総合的な学習の時間」や「行事」への取り組みを通して達成感・成就感を体感させることも大事です。

一人一人の生徒が自分の将来への「夢」を抱き、それに向かって努力していけるよう、私たちはいろんな立場で支援・指導を行っていききたいと思えます。

## 人間関係を大切にした本校の取組

諫早高等学校・同附属中学校長 玉島 健二



是「文武両道」を実践している。また、生徒指導や教育相談を充実して基本的な生活習慣を確立し、心身ともに逞しい心豊かな情操を育むとともに、高い志を抱き、主体的に行動できる生徒の育成に努めている。

### 二 新入生宿泊研修

四月の入学式が終わると、高校一年生と中学校一年生に対し、諫早青少年自然の家で二泊三日の宿泊研修を行う。この研修では、規律ある集団生活を体験し、基本的な生活習慣を養うことや教師と生徒、生徒同士の親睦を深め、高校生及び中学生としての連帯感を養うことを目的としている。挨拶や掃除、

集団行動、登山、校歌練習などをメニューに入れており、学習は一切入れていない。挨拶や集団行動を徹底して指導することは、早く諫高生・諫高附中生になつてもらいたいとの願いであり、まさに人間関係を築く力を養う研修である。

したが、同級生や先輩・後輩が甲子園を目指して戦っている試合を全校生徒が心を一つにして応援することは、「チーム諫高」としての人間関係の土台を形成することにつながると思えている。

三 志の教育  
本校の校訓は、「自律創造」であるが、生徒たちには「高い志を抱いて自分の人生を自分で切り拓く」ことを求めている。それは、

今年、一月に大学入試センター試験が実施されるが、センター試験が沿道で見送る風景も、部活動その他の活動などで築かれた生徒同士の絆がそうさせている。

将来ふるさと長崎県だけでなく、我が国や世界のリーダーとして活躍してほしいとの願いを込めているからである。「志」を育むためには、「なりたいたい自分」を描かせることから始まるが、その土台には「自己統制力」や「人間関係力」など、人間として必要な基礎的力を培うことが必要だと考えている。そのため、取組として、前述した新入生宿泊研修の他、将来の生き方につながる学習である「CD A学習」(自己・他者・社会における発見と理解をテーマとしたキャリア教育)、自他を愛し、命輝かせて生きる人間の育成を目指した道徳教育などがある。

今年、ラグビー部が部員不足で県高総体に出場できなかった。六月八日(土)に諫早農業高校ラグビー部の協力を得て、「お別れ練習試合」を計画した。夕方の試合開始にもかかわらず、多くの諫高生が応援に駆けつけてくれたが、彼らの行動こそ、「真面目に努力する者を応援する」行為である。応援部員二名も声を囁らしながら応援してくれ、これぞまさしく「チーム諫高」と思った次第である。

四 努力する者を応援する学校  
昨年度、野球部が本県で行われた第百三十一回九州地区高等学校野球大会に出場し、附属中学校も含めて全校応援を行った。結果は、古豪熊本工業高校に〇対一で惜敗

昨今、全国では、「いじめ」や「思いやりに欠ける言動」で人間関係が崩れ、不登校等に陥る生徒もいるが、そのような事態にならないような指導と、取組を今後とも継続していきたいと考えている。

一 はじめに  
本校は、今年度で高校創立百二年、附属中学校創立三年を迎え、約千二百名の生徒が学ぶ伝統校である。「諫高道を究める」をスローガンに日々、教育活動に邁進している。進学実績は県下トップクラスを誇り、また部活動では、昨年度陸上部(短距離)と放送部で「日本一」の生徒を輩出するなど、校

# 特別支援教育

## 長崎県の取り組み

長崎県立鶴南特別支援学校長 池田 英俊



特殊教育から特別支援教育への転換が図られる中、長崎県においても平成十三年度に「障害のある子どもたちのための教育推進会議」が開催され、六回の協議の後、「長崎県の障害のある子どもたちの教育の充実を目指して（報告）」が平成十四年四月十八日に提出された。その中では、総合的な養護学校の設置、学校規模の適正化、しま地区等における分教室の設置等の内容を含んだ、盲・ろう・養護学校の適正配置に関すること、高等部教育の充実を求めた、後期中等教育に関すること等の提言とともに、軽度障害等のある子どもたちの教育の充実に関する内容も次の通り含まれていた。

小・中学校に在籍する児童生徒の障害の重度化・多様化に対応するため、担当する教員の専門性を高める研修の充実や支援体制の整備を行うとともに、すべての教職員に対して、障害のある子どもと学習障害(L

D)児等の特別な配慮を要する子どもたちの教育について理解啓発を進める必要がある。具体的には、担当教員に対する研修内容・研修方法の見直し、教育相談体制の充実、特別な教育的配慮を要する児童生徒に対する効果的な指導の在り方等の研究を行うとともに、盲・ろう・養護学校が、地域における障害のある子どもたちの教育に関する相談のセンター的機能を担い、積極的に小・中学校を支援することが望まれる。

この報告を受け、長崎県教育委員会では、平成十五年四月十七日に「障害のある子どもたちの教育推進計画（基本方針）」、平成十六年三月十八日に「同（実施計画）」を公表した。この計画の中では、「軽度障害等のある子どもたちの教育の充実」小中学校を中心に」という項の中で「具体的な施策」として、

- ① 特殊学級等の充実
  - ・ 特殊学級等の拡充や担当教員に対する研修の充実
  - ・ 盲・ろう・養護学校からの支援、合同研修会等
- ② 特別支援教育体制の整備
  - ・ 特別支援教育推進体制モデル事業の実施（平成十五、十六年）(LD、ADHD児等の特別な教育的配慮を要する児童生徒への支援体制の整備)
  - ※ LD、ADHD等総合推進地域の指定
  - ↓ 長崎市、佐世保市、国見町等
  - ※ 校内委員会の設置及び特別支援教育コーディネーターの指名
  - ※ 専門家による巡回相談の実施等

- ③ 関係機関が連携した相談支援体制の整備
  - ・ 小中学校と盲・ろう・養護学校との連携
  - ・ 特別支援教育コーディネーターによる連絡・調整
  - ・ 福祉、医療、労働等の関係機関との連携

を展開していくことが明らかにされた。

この実施計画の公表の後、平成十七年十月に、長崎県教育委員会から「特別な教育的支援を必要とする子どもたちのサポートマニュアル」が小中学校の全教職員とすべての高等学校等に配布された。このマニュアルは、幼稚園・保育所及び小中学校等に在籍するLD、ADHD児等の特別な教育的支援を必要とする子どもたちの正しい捉え方、気づきの観点、適切な支援の方法等をできるだけ分かりやすく示したものであった。

このマニュアルに示されている子どもたちへの関わり方の一部を紹介させていただきます。

- ① 基本的な姿勢
  - ・ ほめる、認める、笑顔で接する、あせらない。
- ② 教室環境の整備
  - ・ 教室前面↓必要最低限のものを整然と掲示する。
  - ・ 教室前面・側面の棚↓きちんと戸を閉めたり、カーテンをつけたりして、箱の中身が見えないようにする。
  - ・ 教室背面の掲示物↓掲示物は規則正しく掲示する。
  - ・ 日課表、週予定↓一日の流れ、週の子定を明示しておく。等
  - ③ 学習のつまずきがある子どもへの対応
    - ・ 子どもたちの長所や得意分野を知り、教材や指導方法を工夫する。
    - ・ スモールステップで目標を設定する。

- ・ 成功したときや達成できたときは大いにほめる。
- ・ 制止や禁止の言葉をできるだけ避ける。「(う)ろろしたらだめ」↓「席に座ります。」
- ・ めあてを決めて自己を「コントロールする力」を高める。(目に見える賞賛)等

- ④ 不注意がちな子ども、集中できない子どもへの対応
  - ・ 授業の始めと終わりには挨拶を！
  - ・ 指示は短く具体的に！
  - ・ 注意を引きつけてから話す。
  - ・ 視覚に訴える。
  - ・ 時間や量の調節をする。
  - ・ ノートは一冊に！等
- ⑤ 社会性や対人関係に困難がある子どもへの対応
  - ・ 言葉を代弁する。
  - ・ 場面を想定して練習する。
  - ・ モデルを見せる。等
  - ⑥ こだわりがある子どもへの対応
    - ・ こだわりにはこだわらない。
    - ・ こだわりを活かす。
    - ※ 環境の構造化(空間的構造化 時間的構造化 視覚的構造化) 時間変更は前もって知らせる。等

さらに、長崎県教育センターから平成二十二年度に「高等学校における特別支援教育ガイドブック（基礎編）」、平成二十四年度には、「同（実践編）」が県内の高等学校の先生方に配布されている。長崎県教育センターのWebページからダウンロードできるので是非子どもたちの支援のために活用していただきたい。(次号へ続く)

※ 参考文献等・「長崎県の障害のある子どもたちの教育の充実を目指して(報告)」・「障害のある子どもたちの教育推進計画(実施計画)」・「特別な教育的支援を必要とする子どもたちのサポートマニュアル」

# わたしの教育実践

## 居場所のある学級づくり

横浜市立矢部小学校 東 由希子



今年度、教員四年目となり、心がけていることは、子ども一人ひとりが「このクラスの一員だ。」と感じることが出来る学級づくりをすることです。低中高学年をすべて経験して感じていることは、だれかに必要とされていたり、先生にほめられたりする体験が「学校が楽しい」という思いと直接つながるといえることです。

私が居場所のある学級づくりを、目指して取り組んでいることは、大きく分けて二つあります。

一つ目は、学級目標を中心とした学級経営です。全体で「こんな学級にしたい。」という思いを共有して目標を立て、毎日振り返ることが出来るようにすることを心がけています。今年度は低学年担任のため、達成できた分、学級のキャラクターを掲示するようにし

ています。目標達成を視覚的にとらえることができ、達成した喜びを友達と共有している子どももいて、私もうれしく思っています。

二つ目は、子どもたちのよさをたくさん見付け、全体の前やみんなに聞こえるようにほめることを心がけています。一人ひとりのできることや得意なことに目を向けていくことを日々大切にすることは、子どもたちの笑顔や子ども同士の認め合いにつながっているように思います。

また、子どもたちが笑顔でいるためには、私自身が毎日健康で笑顔でいることも大切だと考えます。そこで私は、どんなことでもいろいろな人に話をするようにしています。横浜には若い先生がたくさんいるので、少しでも疑問に思ったことや困っていることをどんどん話して、一人で考えたり悩んだりすることがないようにしています。長崎大学出身の先輩もたくさんいて、とても心強いです。

頼もしい先輩や素直で元気な子どもたちと学んでいけることに感謝し、これからも成長していきたいと思います。

## つながり

横浜市立永田台小学校 清水 沙織



私は、いつも「つながり」をキーワードに日々の教育実践に取り組んでいます。本校は、持続可能な社会の担い手を育むという視点をもって教育活動に取り組んでいます。持続可能な社会の担い手となるためには、さまざまな要素があります。中でも、私は、相手を受け入れる心、幅広い視野を持つこと、自分の思いや願いを発信していくことが大切だと思っています。また、それらは、すべて「つながり」から生れてくるものだと思います。

人とのつながり。本気の大人や、家族、友だちとの「つながり」によって、その人たちの願いや思いを知り、さまざまな視点が得られます。また、繰り返し関わることで、自分がやるべきこと、やりたいたいことが見え、自分の行動・生き方につながっていくと思います。

「友だちの意見を聞いて、考え方が変わったよ。」

「わたしたちは、支えられている。次は、自分が何かしたい。」

こんな、発言が聞けるように、子どもの言動にアンテナを張り巡らせています。

学習のつながり。出会いによって生まれた、願いや思いを実現するための気づきや方法を各教科の学習で育んでいきたいです。各教科、単元も「つながり」という視点で見ると、さまざまに結びついてきます。日々、見直すことで、子どものつぶやきや行動の見方、感じかたも変わってきました。

「この学習は、〇〇とつながってるね。」という、発言が聞けた時は、とても嬉しくなります。また、このような視点や行動が生活にも結びついてきていると信じています。

子どもたちが、持続可能な社会の担い手となるよう、日々努力していきたいと思っています。

今回も、この記事を書くにあたり、つながりができたことを嬉しく思っております。ありがとうございました。

# 「養源魂」輝く五十二の瞳

松浦市立養源小学校 松川 雄一郎



私の現在の勤務校は養源小学校です。赴任して二年目になります。養源小学校は、松浦市の福島町の北に位置しており、自然豊かなのどかな環境の中にあります。地域の方々には人情に厚く、学校への関心も高く、多くの方々が校長室や職員室を訪れ、地域での子どもたちの様子を話してくださいます。

そのような中で育ってきた子どもたちは、とても純朴で素直です。全校児童の数は二十六名と少ないですが、五十二の瞳は、きらきらと輝いています。校訓である「養源魂」のやる気・本気・元気・根気のもと、がんばっています。五月の運動会では、今年度から全校での「よさこいソーラン」に挑戦しました。練習の時から上級生は下級生を励まし、みんな少しでも早く踊りを覚えようと必死に

なっており取り組みました。一年生は入学してまだ一か月もたっていないにもかかわらず、教えられたことをどんどん吸収していききました。また、友達に負けないように大きな掛け声を出そう、しっかりと腰を落とそうとする全校児童の姿は、まさに切磋琢磨でした。

そして迎えた本番「構え」の合図でみんなが一斉に腰を落とし、腕をピツと伸ばした瞬間、会場から歓声と拍手がおこったのです。子どもたちの本気が見ている方に伝わった瞬間でした。演技が終わってからも、会場の拍手は、しばらく鳴りやみませんでした。「養源魂」が身を結んだのです。

日々の生活の中では、あいさつの声が響きわたる学校にしようといひさつレベルをいくつかの項目にわけた「あいさつレベル表」を作っています。子どもたちは最高レベルに達するよう、毎日ががんばっています。自分から、大きな声であいさつができる子が増えていきます。

以上のような実践を通して、これからも五十二の瞳をますます輝かせていきたいと思っています。

# 私が大切にしていること

時津町立時津中学校 丸尾 梨華



僭越ながら、私が日々の教育活動の中で特に大切にしている二つのことを紹介したいと思います。

一つめは、「本気でやれば本当の楽しさが味わえる」ということを徹底して伝えることである。私は、日々の生活においても、行事においても、常に生徒に「本気でやる」という姿勢を求めている。本当の楽しさとは、充実感や達成感が伴うものだと思う。「楽」なことと「楽しい」ことは違う。本気で取り組んだ行事の後の帰りの会で、結果に関わらず心が満たされていくような、そしてその気持ち全員で共有しているような、あの何ともいえない幸せな時間が大好きだ。

二つめは、生徒一人ひとりに、小さくても誰かの役に立っているという「貢献意識」を持たせることである。些細なことでもいいから全員に役割を与え、必ずそれを「やらせ切る」ことを意識してい

る。「役割を与えるだけ」で終わらず、成果が出るまで指導し切る。成果が出たら、それを生徒の力として褒め、心から認めることを意識している。この「認められる」という機会を増やすための具体的な実践として、ほかにも学期に一度、全員が一人ひとりの「いいところ」を挙げ、それを私が集約し、一人につき一枚の「いいところシート」というものを作り、通知表と一緒に配っている。子どもたちの、シートを受け取るときのあのうれしそうな表情が大好きで、初任から三年間欠かさず続けている。

私は、部活動の生徒に日頃から「どんな練習をやるかよりも大切だよ」と言っている。世の中に様々な教育論や実践がある中で、「これをやれば子どもは変わる」という絶対的なものなどは存在しないと思う。テクニクに走って大切なものを見失わないようにしたい。私自身の人間力を高め、どんな心で、どんな気持ちで生徒と向き合うか、を大切にしたい。成長し続け、学び続ける教師の姿勢に、子どもたちは共鳴するのだと信じている。

# 母校だより

日弁公 啓

## 教育学部の ミッションと改革

長崎大学教育学部長 山路 裕昭



### (1) ミッションの再定義

我が国は、少子高齢化やグローバル化など、社会の急激な変化に直面しており、持続的に発展し活力ある社会を目指した変革の遂行が求められています。そのような中で、大学は、社会の変革を担う人材を育成し、また社会の変革自体を牽引していくことを求められています。

このような要求に応えるために、現在、国立大学については、文字通り「大学改革」が求められ、それぞれの大学、学部は、その強みや特徴、機能を明らかにし、社会

における役割を明確にしてその機能を強化することが求められています。

この機能や役割を改めて明確にすることが、「ミッションの再定義」と呼ばれ、今年中にすべての国立大学・学部においてそのミッションを再定義することになっています。そして現在、医学、工学そして教員養成分野が先行して進行中です。

### (2) 大学・学部の類型化

文部科学省は、全国の国立教員養成大学・学部を基本的な次の三つのタイプに分類しています。

①広域（ブロック）拠点型を指す大学

広範にわたり教員を輩出するとともに教職大学院と修士課程の併設などによって広域地域の拠点型機能を目指す単科大学等。

### ②地域密接型を目指す大学

所在する都道府県の教育委員会との密接な連携により、地域における教員養成・現職研修の中核的機能を担う総合大学等。

③大学院（現職教員再教育）重点化を目指す大学

大学院教育を中核に位置付け、我が国の現職教員再教育の拠点型機能を目指すとともに、実践的な学士課程教育により学校現場の課題に対応できる教員の養成を主たる目的として設置された新構想の大学。

これらの中で、長崎大学教育学部は②の「地域密接型を目指す大学」と考えるのが自然な流れでしょう。しかし、現実の長崎大学教育学部はそれほど単純ではなく、従来、地元の長崎県を中心としつつも、同時に県外或いは関東などの大都市圏における教員を積極的輩出してきました。今後定められるミッションとの関係で、それらを見直すべきかどうか、慎重に検討していく必要があります。

### (3) 今後の教員組織

文部科学省は、各教員養成大学・学部の教員組織について、学校現場の指導経験を有する専任教員の割合の向上を求めています。

「学校現場での指導経験」の意味については未だ不明確な部分もありますが、現在のところ、長崎大学教育学部の教員の約三割程度は、小中学校等での教職経験や非

常勤講師等の指導経験を有しています。この割合をさらに上げていくことが求められていると考えられますが、基本的には、理論的な教育だけでなく、実践的能力の向上を目指した教育が求められていると言えます。

### (4) 教育学部の改革

ミッションの再定義については、それ自体もさることながら、それを出発点にした改革が求められていることにはしっかりと目を向けなければなりません。

特にこれまで以上に実践的能力を身につけた教員の養成が求められており、それをどのように実現していくかが大きな課題となります。これは、学部における学士教育だけでなく、現職教員の研修についても求められています。

これらの課題の解決のために、まずは教育学部のカリキュラムや教育方法等は勿論、教員組織についても今後見直していかなければなりません。さらに、長崎県教委等の地域の教育委員会との連携、協働も一層必要となります。

今、まさに教育学部の大きな改革が求められているのです。



# 長崎創楽堂の紹介

長崎大学教育学部副学部長 三上 次郎



るため、天井の高さなど音響設計には様々な障害がありました。この極めて限定された条件の中、長崎総合科学大学名誉教授であられます宮原和明先生のご協力のもと、優れた音響を得ることができたことはこの上ない喜びです。

この「創楽堂」の柿落としは六月七日に行われた「小曾根真ピアノLive」でした。今最も輝きを放つジャズピアノニストのパワフルなジャズピアノのサウンドに魅せられました。コンサート前には、学生に向けたワークショップもあり、約2時間にわたる白熱したジャズ講座が開講されました。

この演奏会を皮切りに平成二十四年度は十九の公演が行われました。

「沈松鶴テノール・リサイタル」では、一九九〇年以来、長崎大学教育学部と継続した国際文化・学術交流を実施してきた韓国慶北大学校芸術大学より沈松鶴先生をお招きしました。ドイツ・リートとイタリア歌曲、そして日本と韓国の歌曲によるコンサートの最後は、R・シューマンの「献呈」を長崎創楽堂に頂戴しました。また、ながさき音楽祭との連携で開催された国際交流コンサート「謝承峯ピアノ・リサイタル」で

新しい音楽棟の改修に伴い、百席の音楽ホールが誕生しました。名称は「長崎創楽堂」。学生たちがここで切磋琢磨しながら、新しい音楽を創り出し成長していったほしい、そんな願いを込めています。教育研究拠点として、また長崎大学の芸術普及活動拠点として、充実した展開を可能とするため、十八銀行からスタインウェイ社製グランドピアノ（B-211）をご寄贈いただきました。

今回の音楽棟の改修を単なる耐震の改修に終わらせてはならないという思いから、ホールの設置を願っておりましたが、片峰学長始め大学当局の方々に並々ならぬ支援をいただき、ここに誕生を見ることができました。

新たなホールを建設するのとは違い、すでにある教室の改修であ

は、台湾出身のスタインウェイ・アーティスト謝承峯氏による重厚なクラシック・プログラムが組みられ、若さと情熱溢れる演奏が会場を魅了しました。

加えて、長崎大学経済学部の卒業生で、NHK交響楽団のホルン奏者（現在東京芸術大学准教授）の日高剛氏のリサイタルが開催されたのもこのホールがあったからこそのものだと言えるでしょう。その他にも韓国の昌原大学のキム・ドンスン教授がこのホールを視察に訪れ、その後、是非にということでリサイタルを開催していただいたこともまさにこのホールのおかげであると言えます。

我々音楽科の教員も演奏会を開催し、九月十二日には宮下茂バリトン・リサイタル、十二月二十一日には堀内伊吹ピアノ・リサイタル、翌年二月二十日には加納暁子ヴァイオリン・リサイタルを開催し、私も宮下茂先生のリサイタルの伴奏者として参加をしました。

今年八月十三日にケルン放送管弦楽団の首席奏者三名で構成されている「トリオ・ダンシユ・デ・コロン」の演奏会が行われました。このメンバーの一人のフアゴット奏者の水間博明氏の許には日本から多くの人がその教えを受

けに行っているようですが、その一人が私の作品を氏に紹介したのがきっかけで、このトリオが演奏会に取り上げ、その後レコーディングもして頂いています。今年の日本ツアーでは京都、広島、東北地方での演奏会においてこの作品を演奏していただけるとのことですが、ツアーの最終日には長崎創楽堂にて私のこの作品と、加えて私が木管アンサンブルポエのために書き下ろしたオリジナル作品「風によせて」を京都在住のピアノニスト谷千鶴さんを加えて演奏してくださいと決まっています。

また、ホルン奏者の日高剛氏は今年も長崎でリサイタルをして頂けるとのこと、その折に私の新作を演奏したいとの申し出をうけ、先日委嘱作品を脱稿いたしました。この作品は「海」をテーマに描いたものですが、十月十七日の演奏会で演奏していただく予定です。

そして今年もまた、教員による演奏会も企画しておりますが、その第一番目として十月二十五日に宮下茂バリトン・リサイタルを予定しており、私が伴奏を務める予定です。皆様のご来場をお待ちいたしております。

# おたっぴやだぶら

## 三十八年ぶりに 大学を訪ねて

福岡市西区 田崎 賢吾  
(昭和五十年卒)



退職して数か月が経とうとしていますが、新しい職場に慣れるのに一生懸命で、ゆとりのない日々を過ごしています。原稿依頼を受け、妻を誘って久しぶりに大学を訪ねてみました。車でまわったせいか、学生時代の大学周辺は、思ったより狭く感じられました。ジーンズに下駄の音を鳴らしながら闊歩した校舎は、耐震化工事で外階段が補強され何とも妙な感じがありました。

学生食堂の前に封鎖された学生会館があったことを思い出し、食堂付近を廻ってみるのも何も見つかることは出来ませんでした。三十八年前、第一回の「長大祭」を実行委員長として行ったときに学生運動のいろんなセクトに囲まれて、わけがわからず逃げまどったことを思い出しました。

日曜日であったため、学生の姿もまばらでしたが、四年間所属した「マッスルクラブ」を探して薬学部の手裏に行ってみました。そこにはプレハブの建物が数棟ありましたが、相変わらず汚い場所で見板や落書きに埋め尽くされていました。ドアの開いた部屋に女生がいたので、マッスルクラブの所在を尋ねてみると分らないと言います。諦めてガラス越しにくつかの部屋をのぞいて歩いてみると、今は名前も変わった「マッスルクラブ」がありました。

部員集めに大変なようで、どうも数人で活動している様子です。入学時に一七八cm、六五kgの華やかな身体を鍛えてくれた「マッスルクラブ」。お陰で今日まで、元氣いっぱい三十八年間の教職生活を終えることが出来ました。有り難いことです。

昼になり、好物の「長崎皿うどん」の店を探すと数分。同じ場所に店はありました。当時の娘さんが小母さんになって味を守っていました。「この味です。やっぱ長崎の皿チャンは、此処でないと食べられん。」と思いつきながら、妻の分まで食べてしまいました。

久しぶりの長崎大学。恩師の末松先生や鷲尾先生はご健在なのだろうか、懐かしい皆さんの顔を思い浮かべながら学内を後にしました。教職人生の基礎を育んでいただいた長崎大学と同窓の皆さんに感謝いたします。

## 「ほうっておけない」 の気持ちで

島原市崩山町 伊東喜代子  
(昭和三十八年卒)



私は平成十年十二月から保護司をしています。女性保護司の多くの方は、五十年の歴史と全国十八万人の会員からなる「更生保護女性会」に加入しています。

更生保護女性会は、更生保護に協力し、犯罪や非行に陥った人たちの立ち直りの支援や犯罪・非行防止活動を行うなど、誰もが心豊かに生きられる明るい社会づくりを目指して活動しているボランティア団体です。

長崎県には、十二の地区更生保護女性会があります。私がいる「島原更生保護女性会」は、島原半島三市に五百七十人の会員がいて、今は会長となり皆さんの協力をいただき、微力ながら努めています。

長崎新聞の長期連載「居場所を探して―累犯障害者たち」でご存知の方も多いと思いますが、島原地区に更生保護施設「雲仙・虹」があります。ここへの支援として、七月には会員の協力で集めた夏物の衣類や作業服、そして社会へ復帰する時に必要な背広やネクタイなどを提供したところです。お正月には皆さんに、絵手紙の年賀状を届けてお正月気分を味わってもらっています。また利用者の方と話をしたりして心の壁をとり除き社会復帰がスムーズにできるような支援も考えています。

他に児童養護施設をこどもの日やクリスマスに訪問し、楽しい交流をしたり物品の提供を行い、こどもの健やかな成長を見守ります。

このようなボランティア活動だけでなく、会員の資質の向上のため講演会を開いたり、矯正施設等の視察研修や「社会を明るくする運動」など保護司会の行事にも参加し協力をしています。

長い歴史からも分かりますように、更生保護の活動には終わりはありません。これから母として女性としての立場から「ほうっておけない」の気持ちで活動を続けていきたいと思っています。

# 私のストレス発散法

情報文化教育課程 生方 那奈  
(平成二十一年卒)



長崎大学を卒業してから五年が経ちました。会社に入社した当初教わる立場だった私が、今では教える立場に立っているのですから時の流れは早いものだと感じます。私は、印刷会社に勤めています。主な業務はスーパーのチラシ制作で、その他にも広報誌やバスの時刻表などの制作もしています。私は昔から物を作ることが好きでしたのでこの仕事は性にあっていっているのですが、やはり苦手な仕事はありますし、締め切りにも追われていますのでストレスが溜まります。そんな私のストレス発散になって

いるのが旅行です。友人が旅行好きだというのも大きいのですが、年に二、三回は行っていきます。七月には奈良に行って鹿と戯れてきました。旅行先で非日常感を味わうことで気分転換できるのが良いみたいです。

友人との旅行も楽しいものですが、そういう気分転換という意味では一人旅も良いです。とはいってもいつも誰か友人がいるところに行か行つたことはありませんが、一日目の夜に友人と会う約束をして、それ以外は一人で行動します。私は方向音痴ですので他の人と一緒だと、迷惑をかけないように、ただついていくだけになりがちなのですが、一人なら道を間違えても迷惑をかける相手はいないので、知らない町を自由に散策できるのがわくわくするのです。しかし、帰れないのは困りますので、携帯のナビには随分とお世話になっています。そんな非日常を挟みつつ今日も私はチラシを作る毎日を過ごしています。

# 東京支部の活動

事務局長 中島 敏

## 一、総会

五月十九日に東京玉園同窓会総会を開催いたしました。本年度は、初めての長崎大学東京事務所での総会となりました。

文化的活動の支援、会員相互の交流、新会員の募集が活動の柱になりました。畑島喜久生先生の講話もいただき、懇親を深めました。本年度の役員は次の通りです。

- |      |            |
|------|------------|
| 顧問   | 森 清見 (二二)  |
| 相談役  | 林田 莊七 (二三) |
| 〃    | 大瀬良佐吉 (二四) |
| 〃    | 瑞秀 政裕 (二四) |
| 〃    | 下釜 昭江 (二四) |
| 会長   | 武田 公夫 (三四) |
| 副会長  | 寺崎 利子 (三九) |
| 〃    | 松浦 隆興 (二九) |
| 〃    | 望月 信隆 (四五) |
| 事務局長 | 中島 敏 (四四)  |
| 事務局  | 北村 清 (四四)  |
| 会計   | 坂井 洽子 (四四) |
| 〃    | 久保田和仁 (四五) |
| 会計監査 | 畑島喜久生 (二四) |

〃 元澤 利夫 (二五)

## 二、鎌倉文学散歩

文化活動、会員交流の一環として、鎌倉文学散歩を実施いたしました。六月の鎌倉は、紫陽花が雨に鮮やかでした。北村清講師(四卒)の案内で円覚寺や東慶寺を訪れ、鎌倉を楽しみました。三、九月には、教育講演会を計画しています。

横浜市技能文化会館にて、畑島喜久生氏(二三卒)の「私と詩」という表題での講演です。現在募集をしているところです。

以上、本年七月までの東京支部の活動の様子をお知らせいたしました。



# 地域の子どもは地域で育つ

## 子供会と地域のつながり

筑後中町子供を守る会

会長 関 孝一

小さな町である筑後町と中町は合同で子供会を作り、筑後中町子供会として活動を行っています。

現在の子供の数は、一年生から六年生までと、未就学の子供を含め五十人です。

年間の行事としては、廃品回収・歓迎遠足・夏休みのラジオ体操・バスハイク・夜警・餅つき大会等を行っています。

これらの行事を通じて、子供たちは学年を越えての交流を深め、行事を支える親同士も、また、大人と子供相互も互いにふれ合うことができます。親側からすると、小さな頃から知っている〇〇さん家の子供に対して、無関心でいることはできませんし、子供側からすると、知っている大人の顔が見える町内でなら安心して遊ぶことができます。この輪がしっかりとできていけば、犯罪からも子供たちを守ることもできると思います。また、筑後町は「おくんち」の踊り町となっていることから、子

供会もこれに大きく関わります。

七年に一回訪れる踊り町るとき、

町内の大人は、伝統を継承する責任と誇りをもって、子供たちに厳しく指導を行います。一方、子供

たちも、大人の思いを受け継いでいくのです。おくんちに出た後の子供たちには、自分の住む町を誇りに思う気持ちが生まれます。

筑後中町子供会は、自治会や青年会といった町全体の協力体制や環境のおかげで、とても良い運営ができています。子供たちの健全やかな成長を助ける役割を果たしていると信じて、これからも活動していきます。



## 礼儀・挨拶を部の柱に

ソフトボール戸石クラブ

監督 牧島 寛明

平成二年四月、戸石小学校の課外クラブの一貫として活動を始める。「礼儀、挨拶」を部の柱とし毎年五、六名の卒業生が延べ一五〇名ほど戸石クラブを巣立つ。監督就任当時は、四年生からの入部しか認めていませんでしたが最近、様々なクラブ活動が活動を始め部員確保も厳しくなり低学年の入部も御願いしています。

指導は、私の他に、コーチが二名と父兄で週四回の練習を行う。入部当初は、挨拶もできなかつた子どもたちも周りの父兄から声を掛けられる事により全体の雰囲気が変わり明るくなる様子が分かります。自分の両親以外の人から色々な注意指導を受け、六年生になると入部時とは比べられないほど立派な子どもになります。

子どもたちの成長を見る中で最近思う事は、私たちと性質が違い、私たちは、常に自分がという気持ちでしたが、今の子どもたちには、それが見られませんか。皆で仲

良くという感じの子供も多いと思います。試合中もっと盛り上がる場面でもうまく音頭を取れない子ども。注意、指導を受けても注意された者だけという雰囲気が多い多く見られます。また応用力のなさを感じます。核家族が進む中、両親が立派なのは、理解できますが、今、戸石クラブでは、すべての親が、部員すべての親で、気づいた事は、注意したり指導して

いきます。そして最近両親に注意する事は、今、子どもと同じ時間、空気、景色の中で生活をしている中で親がいくら叱っても子どもがそのとおりになるかという絶対「ムリ」。子どもたちも自分の理想を持ち生活を始めており、その手助けは、親の義務であるが、それを子どものためと思わず孫のためと思うと色々な事で、もつと子どもと接する事ができると両親に話をします。

最後になりますが、躰において、良く子どもに主体性を大事にという親がいますが、小学生の主体性とは、わがままだと思います。その差を親が見極め子育てをしてほしいと思います。

# 動いています同窓会

## 平成二十五年度 図書購入費助成校

特別社団法人長崎大学玉園同窓会は、長崎県内をはじめとする教育の振興に寄与することを目的として、「図書購入費助成」の事業を行っていきます。

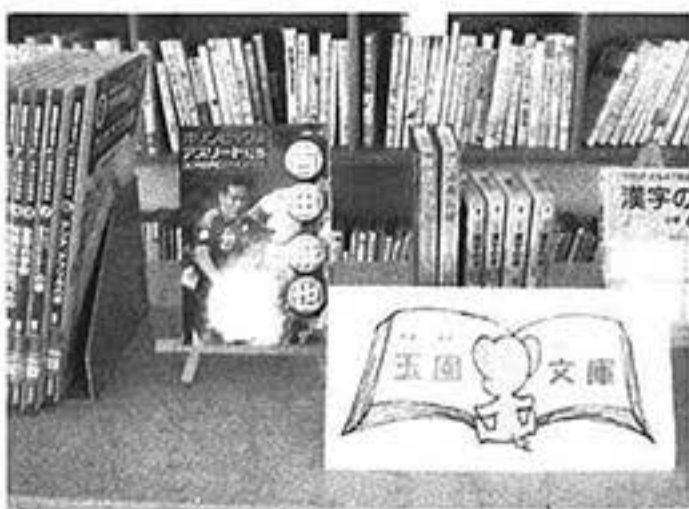
平成二十五年度は、左記の学校に助成を行うことにしました。

- 小学校の部 長崎市立坂本小学校・長崎市立稲佐小学校・雲仙市立木指小学校・五島市立福江小学校・私立聖マリア小学校
- 中学校の部 時津町立時津中学校
- 特別支援学校の部 鶴南特別支援学校時津分教室

### お礼状

先日はたくさんのお書の寄贈、誠にありがとうございます。ありがとうございました。

子どもたちのリクエストや授業で役立つ図書などを購入させていただきました。



寄贈いただいた図書は、図書室に「玉園文庫」としておかせていただきました。夏休み前に購入を済ませることができましたので、子どもたちは夏休みを利用して家庭でゆっくり読んだり、調べたりするのに活用できると大変喜んでおりました。

子どもたちの興味・関心が高まり、調べ学習が充実し学びが広がっていくことを期待しているところです。

(雲仙市立木指小学校)

## 教育学部

### 原爆殉難慰霊祭

今年も、あの忌まわしい八月九日がやって来りました。長崎の街を一瞬にして地獄と化し、七万人を超える人々を熱線と爆風によって焼死させたあの忌まわしい日から六八回目の「原爆の日」を迎えました。

八月九日の長崎は、平和公園での長崎原爆犠牲者慰霊平和式典を中心に、市内各地にある慰霊碑の前や、各小中高等学校で祈りと平和希求の誓いを新たにする追悼行事が営まれました。

我が長崎大学と玉園同窓会も、文教キャンパスにあります「長崎大学原爆殉難慰霊碑」の前で、この地に勤労学徒動員令により、三菱兵器製作所に出動し原爆の犠牲となられた同窓生及び職員五十四名のご冥福と、平和への願いを込めた、追悼「原爆殉難慰霊祭」を営みました。

慰霊祭は、大学の職員の方の司会進行で進められました。

初めに、主催者であります教育学部の山路裕昭学部長の挨拶がありました。

続いて、原爆が投下された午前十一時二分、殉難されました方々の御冥福を祈り御霊に黙祷を捧げました。

次に、参列された同窓会員及び大学の先生方・職員の方々全員で御焼香を捧げました。

最後に、同窓生を代表して永嶋寛延先生から慰霊の言葉が述べられました。

殉難者の御冥福と恒久平和への誓いを新たにし、滞りなく終了することが出来ました。

慰霊祭の実施にあたりましては、大学の職員の方々にたいへんお世話になりました。テントの設営から献花や供物等の準備、そして湯茶の接待まで、心の行き届いた諸準備をしていただきました。大学の職員の皆様、心よりのお礼を申し上げます。



幼稚園

本園では、平成二十三年度より、大学との連携強化をはかり共同研究体制へ移行しました。研究テーマを「小学校以降の学びを見通した幼児の学びの探究」ICTなどを活用した観察記録・分析の工夫・改善を中心に」とし、本年度は三年間のまとめとして、十一月に研究発表会を行います。

子どもを五つの「よさの視点」から捉え、観察記録を行い分析し保育の改善を図ってきました。

園児が今まで以上に笑顔

で、遊びに没頭し、いろいろな学びをしている姿をぜひ御覧ください。

小学校

多様で変化の激しい二十一世紀においては、異なる文化や考えをもつ人々と「協働」しなければな

今、附属校園では

全教室に導入された電子黒板と書画カメラ。新しい機器同様、先進的な研究を目指していきます。

中学校

附属中学校では、「新たな価値を見いだす子どもの育成」を主題として、本年度から附属小学校との共同研究に取り組んでいます。特に、「九か年を見通した協働による思考力・判断力・表現力の育成」に重点を置いた研究を進めております。そのために、教育学部

や長崎県教育委員会との連携を強めていくところです。小中学校段階で育成する各教科の資質・能力や協働的な学びの在り方を提案し、地域の教育拠点校としての役割を果たしていきたいと思えます。

特別支援学校

本校は昭和四十六年に長崎大学教育学部附属養護校として開校しました。本校の特色ある教育活動として、遊び、買い物学習、公共施設等の利用、企業・福祉施設等での現場実習の学習などをおし、社会生活に必要なコミュニケーション能力や働く力などを高め、生活に必要な生きていく力を身につけることを大切にしています。今年度は公開研究発表会を「児童生徒の生活と授業のさらなる結びつきを目指して」の研究テーマのもと、平成二十六年二月十四日に開催いたします。どうぞ、御参会ください。

新会員紹介

平成二十四年度卒業生

学校教育教員養成課程

初等教育課程

小学校課程

- |       |       |        |
|-------|-------|--------|
| 新垣志麻子 | 田上 健人 | 佐根 仁美  |
| 安藤 夏美 | 竹上 健太 | 武末 真輔  |
| 今里加奈子 | 牧元 博美 | 柏田愛佑美  |
| 上田 紋華 | 松尾かなみ | 古賀 瑞紀  |
| 板山 瑠子 | 宮本あかり | 黒木 志保  |
| 猪股 千穂 | 本野 貴子 | 赤島 杏奈  |
| 伊崎 翼  | 森 皇詞  | 磯本 真穂  |
| 井石 祥太 | 吉富 瞳  | 岩本喜和子  |
| 上野 詩織 | 平山 結佳 | 矢野 智美  |
| 浦 春奈  | 瀬上 綾香 | 大園智美子  |
| 喜屋武玲奈 | 濱浦 翔  | 梶山 円貴  |
| 吉良 穂波 | 原田 英和 | 森尾 由佳  |
| 川井 彩香 | 藤田 達也 | 吉田 香純  |
| 菊池 啓子 | 松永 麻美 | 嶋 龍之介  |
| 大湖 幸  | 丸山 俊幸 | 田中 淑香  |
| 大山 沙織 | 向井 千晶 | 玉利 彩   |
| 堺 智樹  | 中塩屋美羽 | 戸張 理子  |
| 杉原 明訓 | 西首 有沙 | 戸村 優梨  |
| 中島 駿介 | 小針 美樹 | 羽野 里香  |
| 仲泊 陸  | 小淵 瑠子 | 櫻木 咲羅  |
| 垣任 織愛 | 坂本 綾  | 志々目千春  |
| 坪谷真理子 | 坂本 静  | 岡崎 耕   |
|       |       | 落合 亜耶  |
|       |       | 久場 絵里  |
|       |       | 久保田有希奈 |
|       |       | 小宮 辰郎  |
|       |       | 近藤 佳裕  |
|       |       | 江口 凌   |
|       |       | 大石 聖美  |
|       |       | 見陣 拓馬  |
|       |       | 浅田 恵里  |
|       |       | 和泉 章弘  |

稲田 慎也	西川 侑里	田原一樹	井手 春佳	山口 亮
上杉 明実	橋田 陽	(数学科)	折原菜奈子	
古賀 雅人	平田 理奈	小野加津也	山崎 寛子	幼稚園
脇田 早織	福田 愛子	佐藤 浩二	(こども保育)	山口美由紀
上戸 涉	内藤 裕	田中 達朗	馬場 翔大	山口 里沙
比嘉 真生	中野 明美	山本 英之	古家伸一郎	横町 実央
平田 昌志	庄司 誠	和田 翔	岩永 沙織	森川佳代子
前田 夏紀	末次美由紀	藤岡 理紗	井村 明慧	北関 沙樹
松田 健志	菅原 由貴	宮崎 洗丞	田添奈央子	佐藤 智美
美野田千紘	高久 祐輔	徳永 麻理	前田 直孝	中村 奏恵
森 翠	田坂 淑	野口 進	松本有希代	西村 美香
濱畑 丈一	田中 愛莉	(理科)	八坂 健太	井手 美美
原 成美	篠田 真実	内島 史章	宮崎 壮理	大井明日香
本山 裕基	柴田ゆかり	岸本 祐也	森 勇一郎	緒方 彩乃
酒井美智也	石田 美咲	宮ノ前健太	津山 正行	甲斐美美子
矢田 輝	一ノ瀬千秋	春口雅致子	道下 翼	田崎 陽花
矢津田志穂	今泉 早智	高木 拓郎	(家庭科)	筒井絵里奈
山口 碧	岩永 研人	田口あかり	大谷 伊代	瀬口 恵里
渡邊 優子	貝原 和洋	田中 慎也	吉田 彩乃	平 茜
松本 真実	指原 千穂	對尾 遼太	原口知奈美	森本 愛梨
幹 美美佳	吉田真理子	濱砂さくら	平井 絢花	山口 彩佳
中野 大樹	青木 端季	松永 雄平	川崎 仁実	特別支援
南里 亜希	宮本 誠	(音楽科)	小田部志美子	小早川真穂
中学校課程		藤川 凛	岩本 拓郎	近藤 友美
(国語科)		久保 智美	千代島史花	和泉 香織
山口 優花	糸山 綾	飯田真理菜	川口 絢乃	緒方みさき
吉武 翔平	大谷 寛氏	(美術科)	藤川 将太	酒井 聡
中村美由希	森 修	藤川 将太	坂元 公平	赤瀬 真紀
町口明日香	東山 拓人	藤川 将太	新宮 明佳	末吉 秀武
池田美佐子	前田 哲平	藤川 将太	木場 友香	田中 ゆり
出田 芳朗	高島 龍平	藤川 将太		木戸ひとみ

# 平成二十五年度 評議員会報告

日時 平成二十五年七月七日(日曜日)  
 出席 理事・評議員(委任状の提出、二十八名)、監事・幹事・顧問を含め五十九名出席

第一号議案「役員の改選」  
 ・島崎健一、縣 恒則、小田恒治、任期満了に伴う、監事への再任  
 ・原 慈子、野中元則、尾崎俊輔、任期満了に伴う、幹事への再任  
 ・平成二十五年度の支部長並びに評議員の委嘱(会報十八ページ参照)

第二号議案「二十四年度の事業報告・決算報告」  
 (1) 事業報告  
 ・平成二十四年四月 準会員、終身会員への入会案内送  
 ・会報の発行(年二回)  
 主題 新学習指導要領の全面実施に伴い「我が校が取り組んでいること」を掲げ各校の研究や実践を発表していただいた。  
 第一二九号(十八ページ) 八、  
 六〇〇部、十月一日発行  
 第一三〇号(十八ページ) 八、  
 四〇〇部、二月一日発行

・教育学部への支援(教育公務員採用試験受験者への指導助言・模擬授業・面接試験の受け方指導。卒業生への玉園同窓会賞の授与。サークル活動への支援。)

・長崎大学原爆殉難慰霊祭への参加及び献花。(24・8・9) 於、長崎大学キャンパス  
 ・地区懇話会の実施  
 二十四年十一月十三日(土曜日) 雲仙支部にて実施。「小浜伊勢屋旅館」山路裕昭学部長先生はじめ、事務局五名、雲仙支部会員の計三十五名出席  
 ・長崎大学全学同窓会(ホームカミングデー・24・11・14)への参加。  
 全体で三八三名参加。内玉園同窓会員一二二名(八学部の中で最高)

・図書購入費助成事業(一校につき十万円前後) 小学校四校、中学校二校、高校一校  
 第三号議案「二十五年度の事業計画・予算案」  
 ・会報「たまごの」の発行 一三一号(十八ページ)一三二号(十八ページ)  
 ・地区懇話会の開催(実施予定)  
 ・教育学部への支援(特に学生の行事等への支援費のアップ)  
 ・長崎大学全学同窓会との連携強化

・図書購入費助成事業(前年度並)備考 二十四年度収支計算書及び二十五年度収支予算書は次のページに掲載

## 収 支 計 算 書

平成24年4月1日から平成25年3月31日

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I. 収入の部				
1. 入会金収入	420,000	414,000	6,000	
入会金収入	420,000	414,000	6,000	3,000円×138名
2. 会費収入	2,900,000	2,717,000	183,000	
会費収入	2,800,000	2,682,000	118,000	1,000円×2,682名
終身会費収入	100,000	35,000	65,000	5,000円×7名
3. 雑収入	100	134	△34	
雑収入	100	134	△34	
4. 繰入金収入	3,500,000	3,342,500	157,500	
繰入金収入	3,500,000	3,342,500	157,500	基金会計より繰入
当期収入合計(A)	6,820,100	6,473,634	346,466	
前期繰越収支差額	204,239	204,239	0	
収入合計(B)	7,024,339	6,677,873	346,466	
II. 支出の部				
1. 事業費	3,920,000	3,536,117	383,883	
会議費	530,000	375,211	154,789	会議要項作成、招集旅費、昼食代、地区懇話会
渉外費	100,000	74,866	25,134	退職校長会、教師と子供の像等
会報・発行費	1,870,000	1,794,620	75,380	会報2回の印刷・発送
名簿整理費	10,000	5,000	5,000	名簿作成資料代
セミナー開設費	180,000	150,000	30,000	講師資料代、反省会補助
学部・準会員支援費	210,000	131,368	78,632	長大祭、学部祭、退官教授祝賀会、卒業発表会
公益事業費	0	0	0	
図書助成費	700,000	698,052	1,948	
支部助成費	320,000	307,000	13,000	通信費、地区懇話会
義援金	0	0	0	東日本大震災義援金
2. 管理費	3,074,339	2,820,253	254,086	
報酬給与	1,440,000	1,440,000	0	職員報酬
法定福利費	0	0	0	労務保険料
交通旅費	270,000	258,390	11,610	交通費
事務用品費	100,000	104,992	△4,992	コピー用紙、トナー交換、年賀状
消耗品費	15,000	8,618	6,382	お茶、灯油
借料	460,000	452,310	7,690	家賃、機器レンタル料
光熱水費	130,000	114,865	15,135	電気 水道 他
公租公課	71,000	71,000	0	県、市民税
通信費	110,000	105,448	4,552	電話、切手
会費徴収費	90,000	87,240	2,760	会費振込料
慶弔費	10,000	15,900	△5,900	祝儀、弔電
雑費	378,339	161,490	216,849	税理事務手数料、法務局登記、残高証明 他
3. 固定資産取得購入支出	0	0	0	
什器備品購入支出	0	0	0	
4. 予備費	0	0	0	
5. 繰入金支出	30,000	30,000	0	退職積立金特別会計
当期支出合計(C)	7,024,339	6,386,370	637,969	
当期収支差額(A)-(C)	△204,239	87,264	△291,503	
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	291,503	△291,503	



## 収支予算書(案)

平成25年4月1日から平成26年3月31日

(単位:円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
I. 収入の部				
1. 入会金収入	420,000	420,000	0	
入会金収入	420,000	420,000	0	※3,000円×200人×0.7
2. 会費収入	2,800,000	2,900,000	△100,000	
会費収入	2,740,000	2,800,000	△60,000	※1,000円×5,800人×0.47
終身会費入金	60,000	100,000	△40,000	※5,000円×15人×0.8
3. 雑収入	100	100	0	
雑収入	100	100	0	
4. 繰入金収入	3,500,000	3,500,000	0	
繰入金収入	3,500,000	3,500,000	0	基金会計より繰入
当期収入合計(A)	6,720,100	6,820,100	△100,000	
前期繰越収支差額	291,503	204,239	87,264	
収入合計(B)	7,011,603	7,024,339	12,736	
II. 支出の部				
1. 事業費	3,870,000	3,920,000	△50,000	
会議費	520,000	530,000	△10,000	会議要項作成・招集旅費・地区懇話会
渉外費	100,000	100,000	0	退職校長会・教師と子供の像 等
会報・発行費	1,850,000	1,870,000	△20,000	会報2回の印刷・発送
名簿整理費	10,000	10,000	0	名簿作成資料代
セミナー開設費	170,000	180,000	△10,000	講師資料代・反省会補助
学部・準会員支援費	200,000	210,000	△10,000	長大慰霊祭・学部祭・美、音への支援 他
公益事業費	700,000	700,000	0	学校図書館の助成
支部助成費	320,000	320,000	0	通信費10,000×17支部・地区懇話会
2. 管理費	3,111,603	3,074,339	37,264	
報酬給与	1,440,000	1,440,000	0	会長・職員報酬
法定福利費	0	0	0	労務保険料
交通旅費	270,000	270,000	0	交通費
事務用品費	110,000	100,000	10,000	コピー用紙・トナー交換・年賀状・西洋紙 等
消耗品費	15,000	15,000	0	お茶、灯油等
借料	470,000	460,000	10,000	家賃・清掃費・機器レンタル料
光熱水費	130,000	130,000	0	
公租公課	71,000	71,000	0	県、市民税
通信費	120,000	110,000	10,000	電話、切手、送料
会費徴収費	90,000	90,000	0	会費振込料
慶弔費	20,000	10,000	10,000	祝儀、弔電他
雑費	375,603	378,339	△2,736	税理事務手数料、法務局登記、残高証明
3. 固定資産取得購入支出	0	0	0	
什器備品購入支出	0	0	0	
4. 繰入金支出	30,000	30,000	0	退職積立金特別会計
当期支出合計(C)	7,011,603	7,024,339	△12,736	
当期収支差額(A)-(C)	291,503	204,239	87,264	
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	0	0	

# 役員紹介

平成二十五年度

敬称略

## (顧問)

山路 裕昭(長崎大学教育学部部長)

上尾 末春(元玉園同窓会長)

下釜 明(長崎県退職校長会長)

立岡 誠(長崎県教育会長)

## (参与)

峰 信子(長師十九)

山田 喜孝(長師二十一)

小西 峯一(長師二十八)

## (法人理事)

(会長理事) 小川 大天(学芸三五)

(副会長理事) 平田 徳男(学芸三七)

(理事) 山崎 滋夫(学芸三七)

(理事) 廣田 勲(学芸四七)

(理事) 渡邊 洋子(学芸三一)

(理事) 平山 進(学芸二八)

(理事) 宮地 計(学芸三〇)

(理事) 藤木 卓(教育五三)

(理事) 草野 昭(学芸三五)

(理事) 木村 晃一(学芸三五)

(理事) 濱崎嘉一郎(学芸三九)

(理事) 峰松 終止(学芸四二)

(理事) 西平 千治(学芸三八)

(理事) 一ノ瀬 薫(長与南小校長)

(監事) 縣 恒則・島崎 賢一

(幹事) 小田 恒治

(幹事) 原 慈子・野中 元則

(幹事) 安部 和隆・尾崎 俊輔

(幹事) 中島 玲子・本多 一郎

(幹事) 渋谷 翠・大隈 智

(幹事) 仲 重利・野田 和宏

## (支部長・評議員)

久富 和幸・赤井 君博  
上野 國博・池田 英俊

長崎支部 田代 知二(日見中校長)

佐世保支部 山口 芳雄(OB・S48)

大村支部 坂元 芳雄(OB・S23)

諫早支部 川端 利長(諫早中校長)

島原支部 松尾 好則(OB・S49)

雲仙支部 安藤 芳也(愛野小校長)

南原支部 大野 義満(口之津小校長)

平戸支部 入口 政信(津吉小校長)

松浦支部 田島 豊広(今副小校長)

五島・南松支部 笹山 義徳(崎山小校長)

東彼支部 有田 洋史(彼杵中校長)

西海・西彼支部 柏田 正(時津小校長)

北松支部 山田 典昭(佐々小教頭)

壱岐支部 坂元 正博(盈科小校長)

対馬支部 杉本美津廣(OB・S49)

国立大学法人・小・中・特別支援学校支部

山本 圭介(付属中主幹)

中川 幸久(県教育委員会)

高等学校支部

「評議員」

「注」各支部長も評議員ですが再掲してお

りません。

長崎支部 菅藤 大三・松尾 克久

金森 徹也・青嶋 秋男

森下 秀男

高橋ちあき・前田 英穂

山口 喜典

大村支部 濱田 昌彦

諫早支部 澤村 信司

島原支部 森本 和孝

雲仙支部 三丸 和明

南原支部 山田 芳弘

平戸支部 松永 勤

松浦支部 千代島 泉

五島・南松支部 岡村 珠樹

東彼支部 藤原 正

西海・西彼支部 川口 正春

北松支部 松瀬 大高

壱岐支部 豊坂 敏博

対馬支部 薦田万州生

国立大学法人・小・中・特別支援学校支部

坂口 洋介・山田 勝大

南原支部 田川 直行・菊川 洋二

平戸支部 中村 敦・玉島 健二

松浦支部 中村 信幸・中嶋 将晴

## 一事一務一局一より

### 急告

一般会員の「会員の確認と会員名簿の整理」

ご承知のとおり、このたびの公益法人制度改革に伴い、玉園同窓会は、「一般社団法人」としての認可を受けるための手続きを進めています。申請期間は今年十一月三十日です。認可のためには、会の組織・運営や事業の見直し・財源や収入の改善・定款の改訂などの計画や見直しを書面で提出し、審査を受けることとなります。

このような事務を進めるにあたっては、まず「会員の確認」が必要であり、所管庁からの指導も受けたところです。

八月二十五日(日)に開かれた臨時理事会・評議員会では、この件に

ついて「会員の要件」と「資格の喪失」を現定款を改正して明示し、過去二年以上の会費未納者等については、会員名簿から除くことが議決されました。

該当される方には、こうした手続きの意味をご理解のうえ、この十月末日までに会費の納入や退会届の提出をお願いいたします。認可申請の手続きとの関係上、この期限をもって会員名簿の整理に着手します。

一人でも多くの方が、会員としてお残りいただくようお願いいたします。

### お知らせ

「長崎大学全学同窓会」開催される「第五回長崎大学ホームカミングデー」が、長崎大学ホームカミングデーが、本年度も、平成二十五年十一月二十三日(土)、長崎大学文芸キャンパスにおいて開催されます。本年度も、学生によるサークル発表、バトン・吹奏楽・コーラス等が予定されています。また、講演として、元プロ野球選手で元楽天の監督「田尾安志」氏が計画されています。そして、楽しみの懇親会も用意されています。多数の参加をお待ちしております。